

現代文重要語...慣用句

快哉を叫ぶ	痛快な気持ちを声に出す
胡散臭い	怪しい。疑わしい。
肝胆相照らす	心を打ち明けて親しく交わる。
人後に落ちない	他人にひけを取らない。
思い半ばに過ぎる	十分に納得がいく。
青菜に塩	元気をなくしてしょげてしまうこと。
杞憂	取り越し苦労。
千慮の一失	賢い人でもまれには失敗するということ。
歯牙にもかけない	問題にもしない。
青天の霹靂	予想外の突発的な出来事。
顰みに倣う	考えもなく人の真似をする。
頂門の一針	相手の急所を付いて戒めること。
間髪を入れず	間をおかず、すぐに。
眼光紙背に徹す	字句の解釈にとらわれず、真意をつかみ取る。
正鵠を射る	物事の核心を突く。
軌を一にする	やり方が同じである。
諸刃の剣	役に立つとともに危険を伴うもの。
習い性となる	習慣はついには生まれつきの性質のようになる。
人口に膾炙す	広く人々の口に上り、もてはやされる。
長広舌をふるう	長々と話す。
象牙の塔	世俗から超然とした境地。
拍車をかける	さらに力を加え、進行を早める。
等閑に付す	おろそかにする。
如何を問わず	どうであるかを問題にせず。
筆舌に尽くし難い	表現のしようがない。
枚挙に遑がない	たくさんありすぎて数え切れない。
名状し難い	表現のしようがない。
目に一丁字もない	字が読めない。教育がない。
自家薬籠中の物	思い通りに役立てることのできるもの。
座右	身近。
糊口を凌ぐ	やっとの事で生活していく。
亀の甲より年の功	年長者の経験は尊重すべきであるということ。
後生畏るべし	若い人は努力することによって、進歩向上におそるべきものがある。
三つ児の魂百まで	幼い頃の性格は年をとっても変わらない。
腓肉の嘆	腕前を発揮する機会がないのを嘆くこと。